



吉田中だより

北九州市立吉田中学校
平成28年12月7日発行
第7号 文責 田代 真二

平成28年度 全国学力・学習状況調査の結果の報告と今後の取組について

文部科学省による「全国学力・学習状況調査」を、平成28年4月19日(火)に、3年生を対象として、「教科(国語・数学)に関する調査」と「生徒質問紙調査」を実施いたしました。

この度、本年度の調査結果を分析し、今後の取組についてまとめましたので、お知らせいたします。学校の現状を知っていただくとともに、ご家庭での取組の参考にしていただきたいと思います。

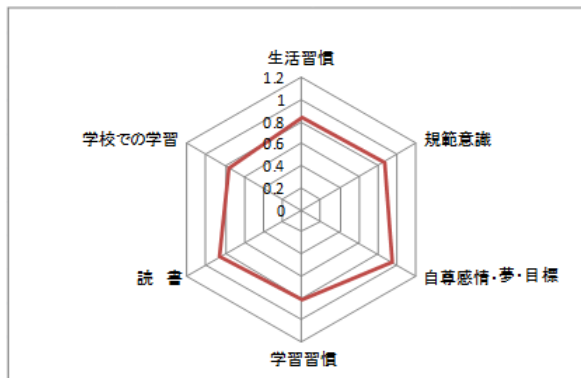
なお、本調査により測定できるのは、学力の特定の一部分であり、学校における教育活動の一側面に過ぎません。本校では、他の教科・領域も含め、総合的に学力向上を目指しています。

また、紙面の関係上、ここでは抜粋したものを載せています。詳細につきましては、本校ホームページに掲載していますので、そちらをご覧ください。

1. 教科に関する調査結果の概要

カテゴリー	学力調査の分析(傾向や特徴)	全国平均正答率との比較
国語A	・全国平均正答率をやや下回っていたが言語知識理解の力は定着してきた。 ・文章の構成や展開について自分の考えを持つ問題、辞書を活用し漢字が表している意味を正しく捉える問題は正答率が低い。	下回っている
国語B	・全国平均正答率をやや下回っているが、昨年度より5ポイント上昇している。 ・文章を読み取り内容を理解する力に課題がある。文章の構成や表現の仕方について、自分の考えを具体的に書く問題は正答率が高い。	下回っている
数学A	・全国平均正答率をやや下回っていたが計算問題、立体図形の問題など空間における図形の理解が深まった。 ・グラフや表からの問題理解に課題が見られる。分数、小数、正の数・負の数の計算、不等式等の問題は正答率が高い。	下回っている
数学B	・全国平均正答率をやや下回っていたが与えられた情報から必要な情報を選択し問題解決に取り組む力がついてきた。 ・数学的に解釈し説明する力が不十分で課題が見られる。与えられた情報から必要な情報を選択し的確に処理する問題は正答率が高い。	下回っている

2. 学校での学習活動、家庭での生活習慣等に関する調査結果の概要



質問紙調査の結果分析

毎日同じ時間に寝ている生徒は全国平均に比べて低くゲームやテレビ等に費やす時間が長い。また、家庭で全く学習時間を確保していない生徒の割合が多い。

規範意識はやや高く、将来に対する夢や自信を持っている生徒の割合が高い。文章を書いたり話し合い活動を通じて学習に取り組む大切さを理解し、学習内容を振り返り定着する活動が求められる。

3. 調査結果から明らかになった、課題解決のための重点的な取組

① 教科に関する取組(全校で・学年で・学級で)

・授業の中で必ず目標(めあて・まとめ)を提示し、課題を整理し話し合い、まとめ発表のできる機会を持ち、自らまとめたり説明を行うことで内容を振り返り定着できるようにする。

② 家庭生活習慣等に関する取組

・テレビ・ゲーム等の時間を少なくし、読書の習慣をつけさせるため生活ノート(吉田ノート)を活用し自学自習、家庭学習の時間が定着するよう取り組みを継続する。またそれぞれの将来への希望や夢を叶えるための目標設定を行い行動に結びつけていくよう指導する。